令和５年度　石川県水産振興協議会　結果概要

（１）「いしかわの水産業振興ビジョン」及び「石川県成長戦略」について

・事務局よりビジョン及び今年度策定された成長戦略について説明した。

（出席委員からの主な質疑・意見）

・漁業従事者の確保育成定着の促進の部分について、いしかわ就職・定住総合サポートセンターによる移住定住への補助などあれば教えてほしい。

⇒事務局：いしかわ就職・定住総合サポートセンターは、ワンストップの移住相談窓口として様々な県の施策の紹介だけでなく市町の施策の紹介も行っている。また、移住定住の補助としては、県地域振興課において東京から石川へ UI ターンで対象法人に就業された方などに移住支援金を支給する事業を行っている。

・藻場の保全と有効活用について、ウニを駆除するのではなく有効利用できないか。例えば東北や北海道の方でウニを持ってきて畜養して餌を与えて身入りのいいものにして出荷している。石川県でも何かしらの行動ができないか。

・石川県内でも製網企業と海女さんが大学と組んで取り組みを始めたと聞いたことがある。

⇒事務局：現状では県内ではウニの駆除は行われているが有効活用はされていない。例えば神奈川ではキャベツの端材とかを使ってキャベツウニというものを育てるという取り組みがなされており、県内においても有効活用できる道が無いか考えていかなければいけないと思っている。ぜひ現場の皆さんからアイディアをお聞かせいただき一緒に考えていければと思う。

・新しい県の漁業調査指導船について、漁場探索の調査地点を漁業調査指導船の船長と漁業者の船長が話し合い決めてもらえればと思う。また、イカす会での体験航海についても検討いただきたい。

⇒事務局：船長方のご意見を伺うなど意思疎通図りながら調査を行っていきたい。イカす会については、地元の事務局の方と相談したい。

・藻場の保全についてどのように実施しているのか、お尋ねしたい。

⇒事務局：長期計画に基づき増殖場の整備を行っており、その増殖場に海藻が育つということで資源の増大と合わせて藻場の増加にもつながっていくという整備を進めている。

・ビジョンでは、石川県沿岸では大規模な磯焼けは確認されておいないが一部の海域で藻場の消失が見られることから、藻場の分布や海域環境に関する調査を継続的に実施すると書いてある。石川県の藻場の状況について今後も調査していくのか聞きたい。

⇒事務局：県の藻場ビジョンを作った時が最近の調査であり、前回調査から伸びているところもあれば少なくなっているところもあるなどの結果だった。藻場の状況の確認については続けていきたい。

・県産水産物の魅力発信については、例えば小鯛でも季節に応じて味が変わることを伝えそれに合わせた調理方法で提供することでリピーターを確保できている。そのような細かい対応を行っていくことが効果的だと思う。また、養殖についても天然資源のおいしさを知っている方に取り組んでいただく形が今後の石川県にとって重要なのではないか。

（２）主な水産施策等の紹介

・事務局より、かなざわ総合市場の整備について説明した。

（出席委員からの主な質疑・意見）

・かなざわ総合市場は高度衛生管理型ということでHACCPに対応しているのか。

⇒事務局：現場の作業効率なども考えてHACCPの取得は見送ったが、それに準じた衛生管理を行う予定。

・食育にも貢献していくとのことだが、ただ見るのではなく、市場にある食材を調理して子どもたちとか生徒たちに食してもらえれば、一層石川県が漁業の県と感じ、愛着を持っていくことになるので、何か工夫できればよいのでは。実際に見る、触る、食べるという一連の流れで体験できたら。

⇒事務局：見て触れてそして食べることは重要だと思っている。現状の市場でも、模擬セリとして、子どもたちにセリ体験をしてもらい、その後料理教室という形で調理して食べてもらう取り組みを行っている。新しい市場ができれば、より多くの方々が市場の見学に訪れることになると思う。そうしたところで裾野を広げていきたい。

（３）水産総合センター研究概要について

・水産総合センターが実施しているアマエビの資源調査について説明した。

（出席委員からの主な質疑・意見）

・白山丸の調査情報の提供について、今後は若い漁師さん達に直接情報を提供することなど考えているか。

⇒事務局：今回は底びき網が主となる魚種だったため底曳網連合会に集まった船長方に情報提供を行った。一方で、刺網などについてはこれからの課題だと感じている。今後、漁獲可能量（TAC）の話し合いを進めていく中で、水産課やセンターから情報提供する場が作られていくのではないかと思う。

・アマエビの資源調査は、いつもこの海域なのか。大和堆は加えられないか。

⇒事務局：金沢の漁業者がアマエビを多く漁獲するということで、これまでは福浦～加賀沖で調査を行ってきた。今後、新たな漁業調査指導船ができればその運用について皆さんの意見・希望をお聞きすることもあると思う。

・スルメイカの資源について新聞に載っていたが、漁業者が安定的に収入を得られているのか、水産総合センターで何かできるのか教えていただきたい。

⇒事務局：スルメイカは東シナ海あたりで産卵をしていると言われている。資源の調査は水産総合センターと、国、関係県が連携して行っている。現時点で資源が好転するという結果は見えてない。その中において、センターでは本県のイカ釣り漁業者の操業支援のために、白山丸を用いて漁場探索を行い、その結果をいち早く石川県の漁業者へお伝えしている。